

# 宮崎市立大淀小学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

本校は、教育目標を、「心身ともに健康でたくましく、自ら考え、正しく判断して行動する児童の育成」とし、「知」・「徳」・「体」の3つの目指す児童像（「①よく考え進んで学習する子ども ②思いやりのある子ども ③健康で明るい子ども」）を掲げている。

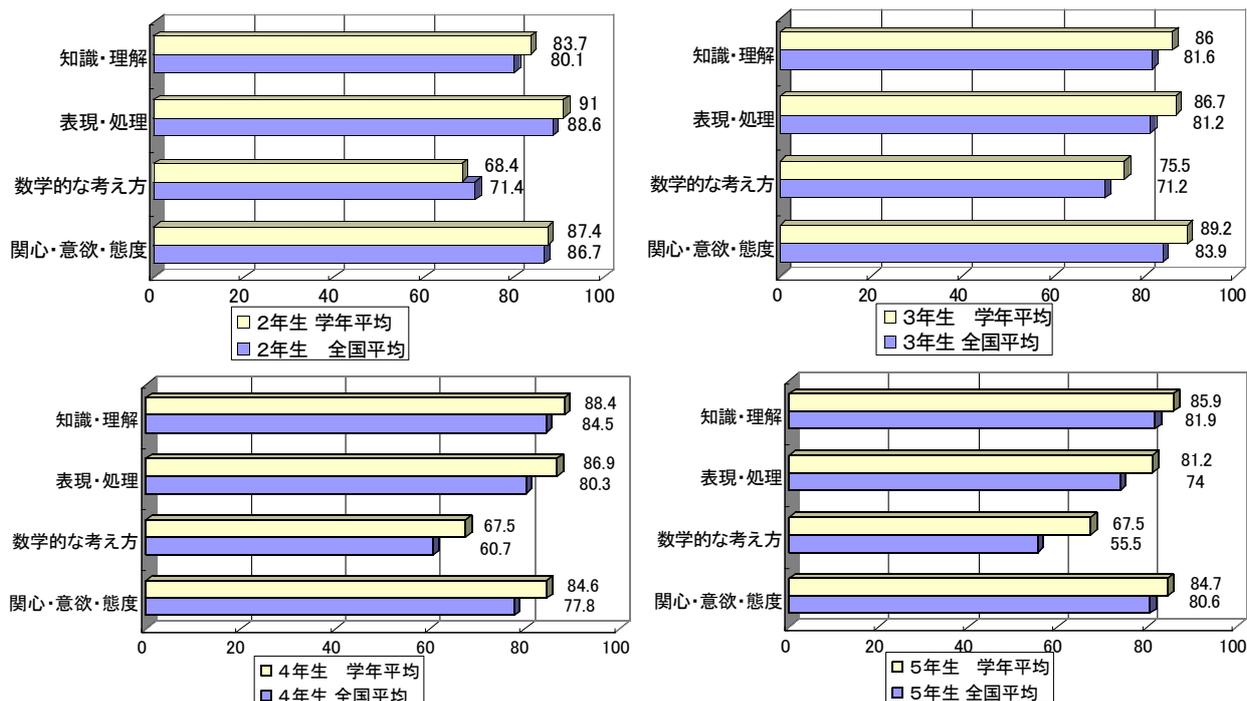
本校では、宮崎市の二学期制の導入に伴って教育課程の工夫改善の一環として算数科における習熟度別少人数指導や補充的な学習、発展的な学習の在り方などの実践的な研究に取り組んできた。また、平成15年度から2ヶ年間、国立教育政策研究所の「評価の工夫改善に関する総合的推進地域事業」の研究指定を受け、絶対評価についての研究も深めてきた。その成果として、形成的な評価を生かしながら単元を通したきめ細かな指導の充実が図られ、児童の学習意欲を高めるとともに算数科における基礎・基本の確実な定着を図ることができた。

本年度は、宮崎県の「明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」の一環である「『知』・『徳』・『体』の到達目標による推進拠点校」の指定を受け、基礎学力、豊かな心、基礎体力の調和のとれた児童の育成を図る研究に取り組んでいる。学力向上への取組として「読み」・「書き」・「計算」・「コミュニケーション能力」の到達目標を設定し、大淀中学校、古城小学校との連携を図りながら一貫性・系統性のある指導を通じて、義務教育9年間を通じた基礎・基本の確実な定着を目指す指導体制の確立を目指している。

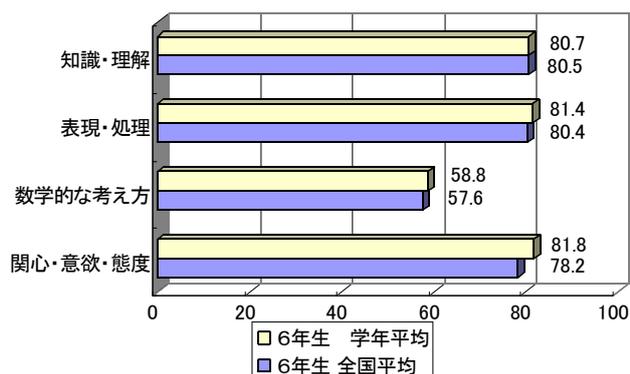
## 2 児童の実態

算数科の CRT 検査では、全ての学年が全国平均を超える成績を収めている。また、アンケートでも「算数が好き」と回答する児童の割合も高い。4年生の国語の CRT 検査でも各観点で高い学力を示している。3段階評価で、1の段階の児童が全国平均より低く、ほとんどの児童が「おおむね満足できる状況」、「十分満足できる状況」にあることも特徴がある。

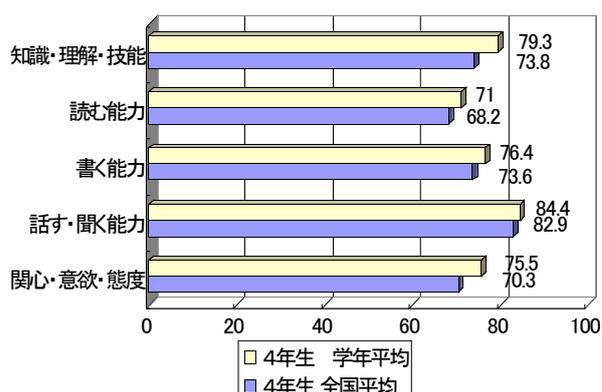
【各学年の CRT 検査（算数）の結果】



【6年生CRT（算数）の結果】



【4年生CRT（国語）の結果】



### 3 学力向上に向けた経営方針

本校では、特に算数の学力向上に向けて少人数授業の展開に力を入れている。少人数指導の加配教員（3名）が、2年生以上のすべての学年で少人数授業を行い、基礎・基本の確実な定着を目指す。本年度からは、兼務発令による中学校の教諭（数学）が6年生の算数の指導を行うことで、よりきめ細かで、発展的な指導体制をとることが可能となったことから、中学校との一貫性・系統性のある指導が実現できるようになってきている。

また、「読み」、「書き」、「計算」、「コミュニケーション能力」について本校児童が6年間で身に付けるべき学力の到達目標を設定した。目標の到達度に関して保護者や地域に対して結果責任と説明責任を果たすことで、本校の教育に対する信頼を高めていきたい。

### 4 教育課程内の取組

#### （1）到達目標の設定

小学校6年間を通じて確実に身に付けるべき学習内容（「読む能力」、「書く能力」、「計算能力」、「コミュニケーション能力」）について、到達目標を設定する。到達目標は、年間指導計画に位置づけ、重点的に指導を行う。1学期には到達目標に照らして、児童の実態調査を行う。年度末に再調査を行い、評価情報を保護者や地域に適切に開示し、結果責任と説明責任を果たす。なお、中学校との一貫性・系統性のある指導を目指す観点から、中学校の目標との系統性も考えて設定している。

【計算力に関する到達目標の例】

「計算力向上」に関する到達目標						
学年 内容	小学校					
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
「数や式に関すること」	◎10をひとかたまりとして、数を数えたり、表したりできる。	◎10000までの数のしくみが分かり、いろいろな方法で大きさを調べることができる。	◎10000より大きい数のしくみについて理解できる。	◎一億をこえる数の表し方やしくみについて理解できる。	◎小数の表し方知り、その大きさを理解できる。	◎計算の見積ができる。
	◎100までの数を順に並べたり、大きさをくらべることができる。			◎がい数の意味を理解し、がい数を求めることができる。		

## (2) 到達度テスト

「計算能力」については、定期的に本校独自で作成した到達度テストを実施し、児童の学習内容の到達度を評価する。その結果をもとに、授業において計画的な補充的な学習を展開し、全ての児童が年度末までに確実に到達目標を達成できるようにしていく。到達度テストは、年間3回、定期的実施し、評価情報は個人面談などの資料としても活用する。

## (3) 少人数指導の充実

### 【個に応じた指導の充実】

本校では、3名の少人数指導教員の加配を受け、2年生から6年生で少人数指導を行っている。課題別グループ指導や習熟度別指導など授業形態の工夫を図り、児童の基礎・基本の定着をめざしている。

昨年度は、単元の学習によって生じる習熟度に対応するために、単元の途中や単元末に補充的な学習や発展的な学習の実践に取り組んできており、本年度からの新しい教科書での指導に役立っている。



## (4) 兼務発令による算数科の授業

中学校の数学科の教諭が本校に来て、6年生を対象に算数の授業を行う。毎週8時間（2時間×4学級）実施している。指導形態は、次の通りである。1学期当初は、兼務教員が小学校の児童の実態を把握するとともに指導方法などの共通理解を図るねらいから学級担任とのTTの形態をとった。その後、1学級を3つのグループに分ける少人数指導を展開するなど、よりきめ細かな指導が可能となった。中学校の先生からの直接指導を通じて、児童の学習意欲の向上がみられる。

指導形態	学習の種類	指導の役割分担
1学級を2つのグループに分けるグループ別授業	課題別グループ学習 習熟度別グループ学習	Aグループ（学級担任と兼務教員） Bグループ（少人数指導教員）
1学級を3つのグループに分けるグループ別授業	課題別グループ学習 習熟度別グループ学習	Aグループ（兼務教員） Bグループ（学級担任） Cグループ（少人数指導教員）

## (5) 指導と評価の一体化の推進

到達目標の達成には、1単位時間ごと、単元の終了ごとの児童の学習状況の評価を的確に行う必要がある。そこで、1単位時間の指導過程の中に、目標に対応した評価の観点と基準を明確に位置づけるようにしている。この評価の観点と基準に基づき、児童の学習状況を「十分満足な状況」、「おおむね満足な状況」、「努力を要する状況」の3段階で評価する。評価結果に基づき、それぞれの状況に応じた手だてを準備し、きめ細かな指導を行っている。また、評価の信頼性と客観性を高めるための校内研修として、参観授業者全員で同一児童の評価を行い、その評価結果を根拠を明確にしながら検討しあう演習を取り入れている。

## (6) 日常指導の充実

朝自習の時間に、計算、漢字のドリルタイムを設け、継続的な計算力、漢字力の育成に取り組む。また、朝の会のスピーチ活動、読み声カードの活用などにより、「話す・聞く」力や音読の力を伸ばす日常指導を展開している。

## (7) 読書指導の充実

本校では、3年前に「読書の杜」事業の研究指定を受け、中学校、高校との連携を図りながらさまざまな取組を行った。その成果として、読書を好む児童が多く、意欲的に読書活動に取り組む姿が見られる。本年度も毎週月曜日と隔週の木曜日に朝の読書活動を行っている。

### 【朝の読書をする児童】



読書環境の整備では、学校図書館司書教諭を中心に、児童の本に対する興味関心を高める図書室設営の工夫（学校ホームページで紹介）を行っている。また、購入対象図書を一同に展示し、全校児童に読みたい本を選ぶ機会を設け、新規の本を購入している。

## 5 教育課程外の取組

「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配付している。児童の発達段階に応じて各教科の学習方法を明示するとともに、学習時間や学習の約束事を家庭に知らせ、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図っている。

## 6 保護者・家庭、地域との連携

### (1) 個人面談の実施

夏季休業中に、全ての児童を対象に、個人面談を実施している。面談では、具体的な資料に基づきながら児童の学習状況について説明をする。この面談を通じて、児童一人一人の学習の重点指導事項について保護者と共通理解を図り、家庭との連携を深める。

### (2) 到達目標の取組の紹介

保護者に向けて本校の研究の取組を知らせる案内（大淀地区三校で作成）を配付し、到達目標と今年度の取組を説明していく。また、地域にも配布し、学校の取組への理解を深めてもらい、今後の協力体制を築いていくようにする。

### (3) 読み聞かせの会との連携

保護者で構成された読み聞かせのボランティア団体との連携を図り、朝の読み聞かせの時間に毎週各学年で読み聞かせをしている。学年の発達段階に応じた良書が選ばれており、児童の読書への興味・関心を高める上で非常に有意義な連携となっている。

## 7 成果と課題

### 〈成果〉

- 少人数授業の指導体制の充実を図り、指導方法の工夫改善に取り組んだことで児童に算数科の基礎・基本の確実な定着を図ることができた。
- 到達目標を設定したことにより、学校の指導の方向性が明確となり、系統性のある指導体制づくりができた。

### 〈課題〉

- 到達目標を達成するための授業づくり、日常指導の指導方法の工夫改善を図る必要がある。
- 教育課程外の学力向上に向けた取り組みの一層の充実を図る必要がある。